

# 気づきの向こう側

平成 30 年 10 月 22 日 (月)

自問清掃通信 第 5 号



この写真は、何をしているところかわかりますか？

2018年サッカーワールドカップで、日本人選手やサポーターたちが去り際に行ったゴミ拾いや清掃が「日本の美德」として世界各国で報道されたときの写真です。

ワールドカップ、ベルギー戦は残念な結果でしたが、選手はそのあとロッカールームをピカピカに清掃をして帰ったそうです。日本のサポーターも、負けてがっかりしているのに、しばらくすると、ゴミ拾いをはじめました。そんな姿を見て、相手チームのサポーターも一緒にゴミ拾いをはじめました。日本の選手、日本のサポーターにとって、使わせてもらったロッカールーム、楽しませてもらったスタジアムをきれいにするのは、「当たり前のこと」なのです。世界で称賛され、あらためてそのような行為が自然にできることを誇りに思います。

今年度の私の清掃担当場所は、生徒玄関・昇降口です。毎日拭いても拭いても、次の日は砂まみれになっています。特に靴で歩く土間は、拭いた後も雑巾の跡が白く浮かび上がるくらい、汚れが落ちにくい場所です。窓には砂埃が付着して、常に真っ白です。ドアの溝や角には砂が沢山詰まっています。もちろん、そのたくさんの仕事を手分けしてやらなければ終わりません。

学期のスタートは、みんなそのような目の前の清掃に追われます。しかし、慣れ始めたころに新たな発見玉を磨き始める生徒がほとんどです。靴箱に置かれている台を引っ張り出して、入り込んでいる砂を掃き出す生徒。それを見て一緒にお手伝いする生徒。誰かがいつもと違うことをしていると、隣の学年の生徒も真似をします。根気玉・親切玉・発見玉が上手に伝染していき、学期の終わりには、どの生徒も玄関掃除のプロフェッショナルになっていきます。そんなとき、私は真っ白に汚れた窓拭きに専念します。そして、掃除のあとの校舎を見て、スッキリとした気持ちになります。

学期のスタートは、みんなそのような目の前の清掃に追われます。しかし、慣れ始めたころに新たな発見玉を磨き始める生徒がほとんどです。靴箱に置かれている台を引っ張り出して、入り込んでいる砂を掃き出す生徒。それを見て一緒にお手伝いする生徒。誰かがいつもと違うことをしていると、隣の学年の生徒も真似をします。根気玉・親切玉・発見玉が上手に伝染していき、学期の終わりには、どの生徒も玄関掃除のプロフェッショナルになっていきます。そんなとき、私は真っ白に汚れた窓拭きに専念します。そして、掃除のあとの校舎を見て、スッキリとした気持ちになります。

毎日15分間の自問清掃の時間に、今日もあなたが黙々と清掃をしていると、知らず知らずのうちに誰かと心を通い合わせていることでしょう。

(文責：山口 郁子)

